

## 令和2年度指導教諭による「指導力向上講座」⑤⑥

前号に引き続き、今号では、11月に行われた2つの「指導教諭による授業力向上講座」を紹介します。

### 【対話を軸とし子どもと共に創り上げる授業】

算数 阿部 佐千子 先生

11月11日(水) 一関市立南小学校

授業：「ひき算」第1学年

説明・協議

#### (1) 授業

導入では、「13個のお菓子から4個あげる」という話をもとに、具体物の操作(減々法)と、式の計算の仕方(減加法)の違いに気付かせ、本時の課題「13-4の計算の仕方を考えよう」へ結びつけていきました。解決場面では、減加法と減々法の違いを、式・図・ブロック操作を関連させて説明させる活動を多く取り入れ、繰り返り下がりのある減法の理解を深めていきました。また、被減数と減数の大きさによって、子どもが考えやすい方法を用いて計算することができるようにしました。



#### (2) 研究協議

算数における「見方・考え方」を踏まえた授業づくり、課題解決に向けて子どもの反応を中心とした授業展開や、紙板書の色分けやカード等の視覚的な手がかりの工夫等について確認しました。また、低学年における具体物とノートの効果的な活用について、実践を交流し合いました。



#### 阿部先生の授業から学ぶ指導のポイント

- 低学年において、確実な計算の仕方の定着のためには、ブロック操作等の活動を繰り返し、その操作を図や式で表現させるとともに、筋道を立てて計算の仕方を説明する活動を重視すること。その際、「どうして1個白いの？」等、ポイントとなる操作について子どもが理由を説明したくなる発問を位置付けること。
- 子どもがブロックなどの、具体物を操作しながら学習を効果的に行うことができるよう、机上整理などの学習規律の徹底を図ること。

#### 参加者の声(一部抜粋)

・たくさんのことを学ばせていただきました。①単元全体をよく見通して授業を構成していること。②児童の実態に寄り添って視覚に訴える教材・教具の工夫をしていること。③上位の子どもを活躍させながら、下位の子どもに充実感をもたせる工夫をしていること。④児童の言葉からポイントとなる言葉を引き出す発問の工夫をしていること。どのような反応になるかわからない1年生を受け止めながら、ブロック→図→式→説明まで結びつけていて勉強になりました。

### 【生徒が主体的に問題を発見し、課題解決を図る授業】

理科 及川 由美 先生

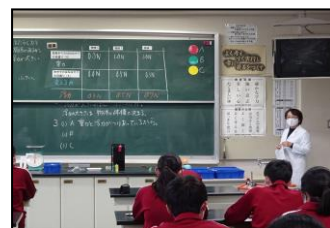
11月16日(月) 奥州市立東水沢中学校

授業：「運動とエネルギー」物体にはたらく2つの力と物体のようすについて説明してみよう(第3学年)

説明・協議

#### (1) 授業

生徒の主体的な学びを促すために、水中の物体の様子を観察させ「水中の物体にはたらく力と浮き沈み」についてしっかりと疑問を抱かせ課題把握につなげていました。また、十分に時間をとり、物体の状態から浮力の大きさを予想させることで、より目的意識をもった実験へと結びつけました。実験結果をもとに、グループで、物体にはたらく力を作図し、力の合成から物体の浮き沈みについて、説明し合う活動を位置付けることにより、物体の体積と浮力との関係の理解を深めました。



#### (2) 研究協議

本時の授業をもとに、より目的をもって実験に向かわせるための見通しの持たせ方・課題設定の在り方や、生徒が学びを自覚化する振り返りのさせ方等について確認しました。また、日常の授業での疑問点や課題点を交流し合い、よりよい理科の授業について考えました。



#### 及川先生の授業から学ぶ指導のポイント

- 生徒が課題意識をもって課題解決に取り組むことができるように、事象提示の工夫等により、気付きや疑問を生かした学習課題を設定すること。
- より目的意識をもって実験・観察を行うことができるよう、生徒一人一人に確実に予想させること。
- 毎時間の振り返りと、単元のまとめとしての振り返りを位置付け、生徒に何ができるようになったのかを自覚させること。

#### 参加者の声(一部抜粋)

・振り返りの大切さについて学びました。単元の始めと終わりに、振り返りを位置付けることで、生徒の学びの変容を確認でき、効果的だと思うので、取り入れてみたいと思います。  
・予想の立て方や、課題とまとめの照応のポイント、ICTの活用等、参考になる話を多く聞くことができました。  
・「まとめ」と「振り返り」について、自分自身曖昧になってしまっていた部分がありましたが、及川先生のアドバイスで解決しました。